

# よりそう

Side by Side



## ボランティア雑感

谷本咲太郎

2週間ボランティアをして感じた事を述べさせていただきます。

### □ボランティアデビューまで

今まで一度もボランティアなんてしたことなかった自分、余裕がないのに人の為は無償で何かをやるなんて無理だとずっと思っていた。ところが多少心が成長してきたのか、自分が生きて何かできているのは人のおかげであって、自分一人では何もできなかったという事を感じるようになった。そして世の中で一番大切な事は人と人のつながりであって、人を愛するという事なんじゃないかなと思うようになった。人の心の痛みも多少わかるようになってきたのかなと感じていた、そんな頃にあの地震が起きた。

今心が傷ついた人たちがたくさんいる東北に行って、元気になってもらいたいと思った。東北の人たちのために何かしたいと思った。そして正直に言うがこんなキレイ事ばかりではなくて、キッカケの一部には少々興味本位の部分もあったことは否定できない。たとえばテレビで見た風景を生で見たい、というような。

### □実際に現場で作業してみた

最初にやったのは、陸前高田で、畑にする土地の細かいゴミ拾い、二日目は大槌の宅地跡の小さなガレキ拾いだった。最初は正直に言う「こんなことやる必要あるのかな？」という疑問も自分の中ではあった。

しかし5日目に地元のおばあちゃんの家のお家具の移動の手伝いに行ったとき、終わったあとおばあちゃんがすごく感謝してくれた。宅地跡の掃除の作業をしたときも住んでいた方から、「病院行く時に見たよ、ありがとうございます」と声をかけてもらった。そこで初めて、自分のしたことが無駄にはなっていないと実感することができた。

### □もはや他人事ではなくなった

そして6日目にあの映像を見た。今までテレビで見た映像は他の町の出来事だったのに、一人のおばあちゃんと知り合えた事と、毎日通って知っている場所になってから見た津波の映像は、他人事だとは思えなかった。自分の街にこれが来たら・・・と想像していた。

その次の日からは、小さなゴミ、今まで拾わなくてもいいんじゃないかと思っていたものが、あの恐ろしい津波の爪痕でできたもので、津波の爪痕はどんな小さなものでも取り除きたいという気持ちになっていた。

実際に被災したわけではないので、何を言っても軽い言葉

にしかないけど、少なくともここに来るまでは他人事だったことが、身近な事に感じられるようになった。地元の方と一緒に作業していると、やっぱりまだまだ他人事だという事がすごくよくわかるし、同じ経験をしないと被災した側の気持ちをわかる訳はない。その痛みは一生消えるものではない。ただ、そういう痛みを持っているんだという事を感じることはできた。

### □今おもうこと

ボランティアというのは人として優れた人とか、人一倍優しい人達が集まっているのかと思っていたら、僕の身近にいる友達と何ら変わらない普通の人達だった。ただ何かせずにいられなかった人達がここには集まってきているのだと思う。でもその「何かせずにいられない、だまってられない」というのがやっぱり愛なのだと思う。

ボランティアの力で東北の人の受けた痛みを少しでも癒せるのなら、そして自分がその手伝いのできるのならそれはやっぱりすてきなことだと思っている。

## 祝！吉里吉里国、「復活の薪」 50トンついに完成！ 9月24日(土)



連日のミーティングでの宮本隊長のお話でもおなじみの吉里吉里国「復活の薪」プロジェクト、全国から注文が殺到した10キロ×5000袋、総量50トン分の薪作りがついに今日完成しました。津波で出た廃材を元に薪を作るこのプロジェクト、労賃さんを代表とする地元吉里吉里の方々にボランティアの力が加わり最後は連日の猛スパート、そしてついにこの日初回注文分の薪50トン分を完成させることができました。詳しくは追って特集いたしますので楽しみに。作業にかかわった全ての皆様、本当にお疲れ様でした！

9/24(土)の宿 10×87:124× 3:35人

ミラ日ウミリー、ニゲより  
持ち帰るゴミは自分で持ち帰ります。